

平成25年度予算要求に係る新規事業採択時評価

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	一般国道42号 新宮紀宝道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県新宮市あけぼの 至：三重県南牟婁郡紀宝町神内	延長	2.4 km		
事業概要	近畿自動車道紀勢線は、大阪府松原市から三重県多気郡多気町に至る約33.5kmの高規格幹線道路である。一般国道42号新宮熊野道路（新宮北～紀宝間）は近畿自動車道紀勢線の一部を構成する道路で、和歌山県新宮市あけぼのから三重県南牟婁郡紀宝町神内に至る延長2.4kmの自動車専用道路である。				
事業の目的、必要性	新宮紀宝道路は、事業中の那智勝浦道路と連続し、近畿自動車道紀勢線の一部として、和歌山県と三重県を結ぶネットワークを形成。 輸送時間の短縮、救急医療活動の支援、渋滞緩和による地域相互の振興と発展に寄与するほか、台風等による土砂災害や東海・東南海・南海地震等の地震災害時におけるネットワークを構築し救命活動や地域復興支援に寄与するものである。				
全体事業費	約210億円	計画交通量	約11,600台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見	<p>【和歌山県知事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般国道42号新宮紀宝道路の予算化については同意。 南海トラフの巨大地震により甚大な被害が想定される本県においては、人命救助はもとより迅速な復旧・復興のために不可欠な命の道として、また、医療・教育機会の平等や、経済活動に対する県民のチャンスを保障するものとして、不可欠かつ急務。 <p>【三重県知事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊野川河口大橋（仮称）を含む「一般国道42号新宮紀宝道路」は、地域の防災機能の向上や慢性的な交通渋滞の解消などに資する重要な道路となることから平成25年度に係る予算化をお願いする。
----------------	--

学識経験者等の第三者委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業化については妥当である。 当該区間は熊野川を渡る重要な場所に位置しており、南海トラフ巨大地震による津波への対応を考慮すると、一刻も早くつなぐことを求めている。
------------------	--

事業採択の前提条件	<ul style="list-style-type: none"> 費用対便益：便益が費用を上回っている。
-----------	---

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：150億円 （事業費：147億円 維持管理費：4億円）	総便益：180億円 （走行時間短縮便益：146億円 走行費用減少便益：22億円 交通事故減少便益：12億円）	基準年 平成24年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=1.3 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.1 (事業費 +10%)	B/C=1.3 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間 +20%)	B/C=1.3 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	並行する一般国道42号の混雑の緩和が見込まれる。 (一般国道42号の混雑度：1.52(整備前)→0.64(整備後))		
		事故対策	—	注目すべき影響はない		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	◎	重篤患者の治療が可能な医療施設への搬送時間が短縮。 (紀南病院から新宮市立医療センターへの搬送時間 現況 38分→整備後 30分)		
		地域経済	○	代替路の確保により、災害時に道路の寸断が回避され、地域間連携を強化		
		災害	○	現行の津波浸水区域を回避し、浸水予測区域内を通過する箇所は十分な高さを確保することにより、災害時における広域交通ネットワークの安全性・信頼性を確保。		
環境		○	地形改変量を最小限とすることで、自然環境・猛禽類等への影響を最小限にしたルート・構造である。			
	地域社会	○	熊野川渡河部での分散化が図られ、新宮市と紀宝町の地域間交流や連携を促進する。			
事業実施環境	○	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年6月、8月に計画段階評価を実施 和歌山県知事、三重県知事より近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地、新宮～熊野大泊）の新規事業化を要望 				

採択の理由

費用便益比が1.2と便益が費用を上回っていると同時に、事業採択の前提条件が確認できる。また、東海・東南海・南海地震時における緊急輸送路の確保、交通渋滞の緩和等、当該事業の必要性・効果は高いと判断出来る。以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

参考:平成25年度予算要求に係る新規事業採択時評価(防災機能の評価)

担当課:道路局 国道・防災課
担当課長名:三浦 真紀

1. 事業の概要

事業名	一般国道42号 新宮紀宝道路	事業区分	一般国道	事業主体	近畿地方整備局
起終点	和歌山県新宮市あけぼの ～三重県南牟婁郡紀宝町神内	延長	2.4km		
事業概要 目的	<p>・一般国道42号新宮紀宝道路(新宮北～紀宝間)は近畿自動車道紀勢線の一部を構成する道路で、和歌山県新宮市あけぼのから三重県南牟婁郡紀宝町神内に至る延長2.4kmの高規格幹線道路である。</p> <p>・本事業は、輸送時間の短縮、救急医療活動の支援、渋滞緩和による地域相互の振興と発展に寄与するほか、台風等による土砂災害や東海・東南海、南海地震等の地震災害時におけるネットワークを構築し救命活動や地域復興支援に寄与する事業である。</p>				
事業費	約210億円	3便益B/C	1.2		

2. 必要性の評価

(1) 課題の整理

評価項目	当該事業地域の課題・上位計画等
防災・災害時の救助活動等	<p>※高速度道路のあり方検討有識者委員会・緊急提言 「広域的な幹線道路ネットワークについては、地域の孤立化や多重性の欠如など災害面からの弱点を再点検し、その克服に向けて、ミッシングリンクの解消や隘路区間の改良など効果的な手法を選択し、緊急性の高い箇所から重点的に強化を行う必要がある。」</p> <p>※近畿圏広域地方計画(H21.8) 「被災による地域の孤立化を防ぎ、迅速な救援活動を実施するため、近畿自動車道紀勢線や五條新宮道路等の必要な整備を推進する。」</p> <p>※中部圏広域地方計画(H21.8) 「大規模地震時等の災害時におけるリダンダンシー機能等を担う近畿自動車道紀勢線等の必要な整備を推進する。」</p> <p>※和歌山県長期総合計画(H20.4) 「道路は、商工業・観光・防災・医療など、あらゆる活動の基礎となるインフラであり、ナショナルミニマムを保障する根本です。グローバルな交流を支える高速道路(近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道)ネットワークを形成するとともに、高速道路を補完する内陸部骨格道路や府県間道路など道路網の整備を早期に図ることにします」</p> <p>※三重県「みえ県民カビジョン(H24.4) 「県民生活や地域の経済活動等を支え、防災機能を備えた安全な交通を確保するために、高規格幹線道路、直轄国道および県管理道路と一体となった道路網の整備、緊急輸送道路ネットワークの形成を推進します。」</p> <p>・新宮市～紀宝町間の国道42号は、当該地域の唯一の幹線道路であり、有効な迂回路が存在しない ・東海・東南海・南海地震の発生時には、現道の国道42号(新宮市～紀宝町:約9.1km)のうち、約4割の区間が津波により浸水し通行不能になると予測</p>
住民生活	<p>※近畿圏広域地方計画(H21.8) 「兵庫県北部や、和歌山県紀南地域等、第3次救急医療機関までの搬送に時間を要する地域において、鳥取豊岡宮津自動車道や近畿自動車道紀勢線等の必要な整備を推進する。」</p> <p>※中部圏広域地方計画(H21.8) 「中山間地域を始めとした地理的、社会的条件が不利な地域や、災害等で地域が分断・孤立するおそれのある地域においては、急病人発生時や災害時等における救急体制の構築や緊急輸送手段・経路や避難路を確保する。」</p> <p>※和歌山県長期総合計画(H20.4) 「道路は、商工業・観光・防災・医療など、あらゆる活動の基礎となるインフラであり、ナショナルミニマムを保障する根本です。グローバルな交流を支える高速道路(近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道)ネットワークを形成するとともに、高速道路を補完する内陸部骨格道路や府県間道路など道路網の整備を早期に図ることにします」</p> <p>※三重県「みえ県民カビジョン(H24.4) 「県民生活や地域の経済活動等を支え、防災機能を備えた安全な交通を確保するために、高規格幹線道路、直轄国道および県管理道路と一体となった道路網の整備、緊急輸送道路ネットワークの形成を推進します。」</p> <p>・紀南病院と新宮市立医療センターは、地域の高次医療施設の中心的な役割。特に新宮市立医療センターは、紀南病院からの重篤患者(心筋梗塞・脳疾患・心疾患)を受け入れており、搬送時間の速達性確保が課題</p>

地域社会 地域経済	<p>・平成23年9月の台風12号では、熊野川の氾濫によって国道42号が通行止を余儀なくされ、また、平常時においても慢性的な渋滞が発生し、東紀州地域間の連携に支障</p> <p>※和歌山県長期総合計画(H20.4) 「道路は、商工業・観光・防災・医療など、あらゆる活動の基礎となるインフラであり、ナショナルミニマムを保障する根本です。グローバルな交流を支える高速道路(近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道)ネットワークを形成するとともに、高速道路を補完する内陸部骨格道路や府県間道路など道路網の整備を早期に図ることにします」</p> <p>※三重県「みえ県民カビジョン(H24.4) 「県民生活や地域の経済活動等を支え、防災機能を備えた安全な交通を確保するために、高規格幹線道路、直轄国道および県管理道路と一体となった道路網の整備、緊急輸送道路ネットワークの形成を推進します。」</p>
その他	-

(2) 事業の必要性

・東海・東南海・南海地震時における緊急輸送路の確保、交通渋滞の緩和等、当該事業の必要性・効果は高いと判断出来るため、事業の必要性があるものと評価する。

3. 有効性の評価

(1) ネットワーク上のリンクとしての評価

①主要都市・拠点間の防災機能の向上					
区間	リンクの評価		効果	評価	
	現状(整備前)	(目標)整備後			
新宮市(振興局所在)	熊野市(振興局所在)	D	(B) B (一部事業化)	<p>・主経路(国道42号)に事前通行規制区間等があるため、評価レベルはDとなる。</p> <p>・当該事業のルートが事前通行規制区間等を経て計画しているため、災害危険性はなく、評価レベルはBランクに改善される。</p>	◎
②ネットワーク全体の防災機能の向上					
リンクの評価			効果	評価	
弱点度(整備前)	弱点度(整備後)	改善度			
29.4	19.6	1.5	当該リンクの整備により、新宮市から熊野市間の災害時の迂回が解消することにより、ネットワーク全体の防災機能向上。	◎	

(2) 当該事業としての評価

評価項目	事業による効果	評価
防災・災害時の救助活動等	・現行の津波浸水予測区域を回避し、浸水予測区域内を通過する箇所は十分な高さを確保することにより、災害時における広域交通ネットワークの安全性・信頼性を確保	○
住民生活	・重篤患者の治療が可能な医療施設への搬送時間が短縮 紀南病院から新宮市立医療センターへの搬送時間が短縮 現況 38分 ⇒ 整備後 30分	◎

地域経済 地域社会	・代替路の確保により、災害時に道路の寸断が回避され、地域間連携を強化	○
その他	—	

(3) 事業の有効性

・当該事業の実施により、ネットワーク上のリンクの評価がDランク→Bランクに改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。
 ・また、本事業において、津波への適応性が改善するとともに、速達性の向上による救急搬送の改善や地域間の連携が促進されるなど、有効性の高い事業と評価する。

4. 事業実施環境・第三者意見

事業実施環境	・平成24年6月、8月に計画段階評価を実施 ・和歌山県知事、三重県知事より近畿自動車道紀勢線(すさみ～太地、新宮～熊野大泊)の新規事業化を要望
--------	--

和歌山県	「一般国道42号新宮紀宝道路の予算化については同意。南海トラフの巨大地震により甚大な被害が想定される本県においては、人命救助はもとより迅速な復旧・復興のために不可欠な命の道として、また、医療・教育機会の平等や、経済活動に対する県民のチャンスを保障するものとして、不可欠かつ急務」との意見を頂いた。
三重県	「熊野川河口大橋(仮称)を含む「一般国道42号新宮紀宝道路」は、地域の防災機能の向上や慢性的な交通渋滞の解消などに資する重要な道路となることから平成25年度に係る予算化をお願いする」との意見を頂いた。
社会資本整備審議会 道路分科会 事業評価部会	「新規事業化については妥当である。なお、当該区間は熊野川を渡る重要な場所に位置しており、南海トラフ巨大地震による津波への対応を考慮すると、一刻も早くつなぐことを求めたい」との意見を頂いた。
社会資本整備審議会 地方小委員会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。 「防災上の危険性が懸念されるため、すさみ～太地、新宮～大泊についても、早期事業化すべき。」との意見を頂いた。

5. 対応方針

・当該事業により、新宮市～紀宝町間における幹線道路の信頼性や速達性が向上することや、緊急輸送等の円滑化が可能となること、さらにミッシングリンクの解消や各地域の広域的な連携、貢献等が認められることから、防災機能の評価を踏まえ、当該事業の必要性・有効性は高いと判断できる。
 以上より、本事業を平成25年度予算要求の新規事業箇所として要求する。